

令和 7 年 11 月 28 日  
気象庁大気海洋部

## 配信資料に関する技術情報第 663 号

～ 1 か月予報ガイダンス、季節予報ガイダンス、1 か月予報資料、  
3 か月予報資料、暖・寒候期予報資料の変更について ～  
(配信資料に関する技術情報第 612 号、第 656 号、  
配信資料に関する仕様 No. 20104, 20108, 20111, 20112 関連)

### 概要

令和 8 年 1 月頃に予定している新しい季節アンサンブル予報システムの運用開始(配信資料に関する技術情報第 656 号)に伴い、1 か月予報ガイダンス、季節予報ガイダンス(3 か月予報、暖・寒候期予報)、1 か月予報資料、3 か月予報資料、暖・寒候期予報資料を新しい季節アンサンブル予報システムに基づくものへと変更します。また、本変更に合わせて、各予報資料に掲載している図の表示形式を一部変更するとともに、3 か月予報資料及び暖・寒候期予報資料に掲載している指数の計算に用いる空間パターンを変更します。配信に係る仕様(ファイル形式、ファイル名、配信日時等)の変更はありません。

### 1 変更日

令和 8 年 1 月頃を予定していますが、決まり次第、配信資料に関するお知らせにより別途お知らせします。なお、令和 7 年度の配信日については令和 7 年 3 月 7 日付配信資料に関するお知らせ「令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの季節予報発表日及び季節予報資料配信日について」をご覧ください。

### 2 変更点

#### (1) 新しい季節アンサンブル予報システムの運用開始に伴う変更

各配信資料(表 1 ①～⑤)の予測部分を新しい季節アンサンブル予報システムに基づくものへと変更します(表 2)。これに伴い、3 か月予報資料及び暖・寒候期予報資料に用いるメンバー数が 51 から 85 に変更となります。また、「3 か月予報資料 各種指数類時系列図」を見やすく変更する(図 1)とともに、③～⑤の各種時系列図やヒストグラム図の縦軸スケールを固定せず、値に合わせて調整します(図 2)。

なお、これらのファイル形式や掲載する図の種類等の仕様は現行(配信資料に関する仕様 No.20104、No. 20108、No.20111 及び No. 20112)から変更ありません。各資料の詳細については上記の各仕様をご覧ください。

#### (2) 指数の計算で用いる空間パターンの変更

3 か月予報資料及び暖・寒候期予報資料の指数の計算に用いる空間パターンは、気象

序第3次長期再解析（JRA-3Q）の1948～2021年の期間を利用して求めています。これまで、上記期間のうち2013年5月～2021年12月についてはJRA-3Qの暫定値から求めた空間パターンを指数計算に用いていましたが、新しい季節アンサンブル予報システムの運用開始に合わせて、全期間においてJRA-3Qの確定値から求めた空間パターンに変更します。3か月予報資料及び暖・寒候期予報資料の指数の計算に用いる500hPa高度主成分の空間パターンは、図3のとおりです。

表1 変更を行う各資料の名称及び要素名

資料名称	要素名（ある場合のみ記載）
① 1か月予報ガイダンス	
② 季節予報ガイダンス （3か月予報、暖・寒候期予報）	
③ 1か月予報資料	(1) 実況解析図 (2) 北半球予想図 (3) スプレッド・高偏差確率 (4) 各種時系列 (5) 熱帯・中緯度予想図
④ 3か月予報資料	(2) 熱帯・中緯度実況解析図（一部予報値含む） (3) 熱帯・中緯度予想図（3か月・月別） (4) 熱帯・中緯度予想図（月別） (5) 熱帯・中緯度 高偏差確率・ヒストグラム・各種時系列図 (6) 北半球実況解析図（一部予報値含む） (7) 北半球予想図 (8) 北半球 高偏差確率・ヒストグラム (9) 各種指数類時系列図 (10) 数値予報ガイダンス
⑤ 暖・寒候期予報資料	(1) アンサンブル平均予想図 (2) 熱帯・中高緯度 高偏差確率・ヒストグラム・各種時系列図 (3) 北半球 高偏差確率・ヒストグラム・各種時系列図 (4) 数値予報ガイダンス（気温・降水量・梅雨期間降水量・降雪量）

表2 1か月予報、3か月予報、暖・寒候期予報に用いる数値予報システム

予報の種類	数値予報システム	
	変更前	変更後
1か月予報	全球アンサンブル予報システム（GEPS）	季節アンサンブル予報システム（CPS4）
3か月予報	季節アンサンブル予報システム（CPS3）	
暖・寒候期予報		

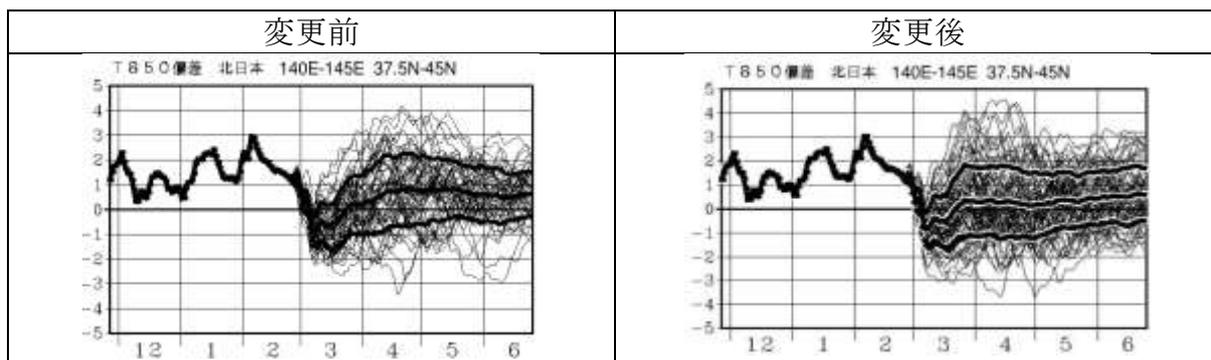


図1 「3か月予報資料 各種指数類時系列図」に掲載する北日本 850hPa 面気温年平均偏差のイメージ(令和6年3月11日配信資料の例)。

太実線は解析(3月10日以前)及び予報(3月11日以降)を示し、予報は上から順にアンサンブル平均+標準偏差、アンサンブル平均、アンサンブル平均-標準偏差を示す。細実線はアンサンブル予報の各メンバーを示す。変更後の図では、視認性向上のため、太実線の予報部分を白抜きで表示している。なお、変更前後でメンバー数が異なるため、アンサンブル平均等及び各メンバーの値は異なる。

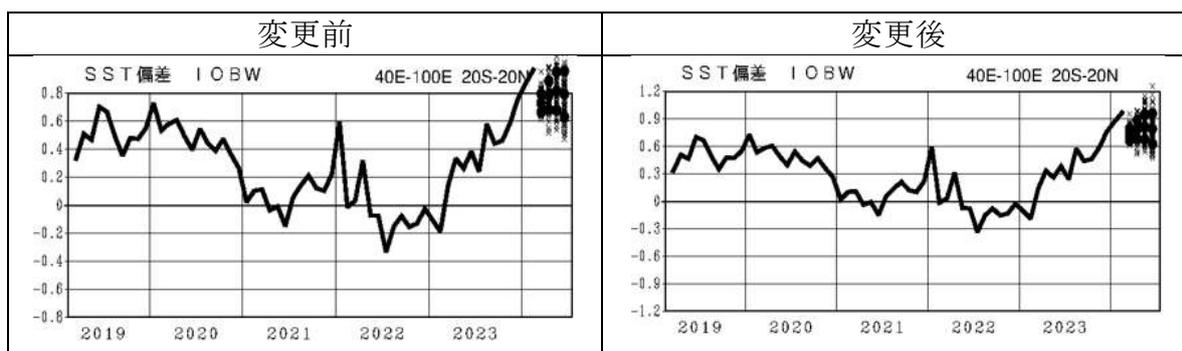


図2 「3か月予報資料 熱帯・中緯度 高偏差確率・ヒストグラム・各種時系列図」の縦軸スケール変更のイメージ(令和6年3月11日配信資料、インド洋熱帯域(IOBW)における海面水温(SST)偏差の例)。

太実線は過去60か月分の解析値、×は月別アンサンブル値、●は上から順にアンサンブル平均+標準偏差、アンサンブル平均、アンサンブル平均-標準偏差を示す。変更前は縦軸のスケールを固定としていたが、変更後は実況値及び予測値に合わせて調整する。

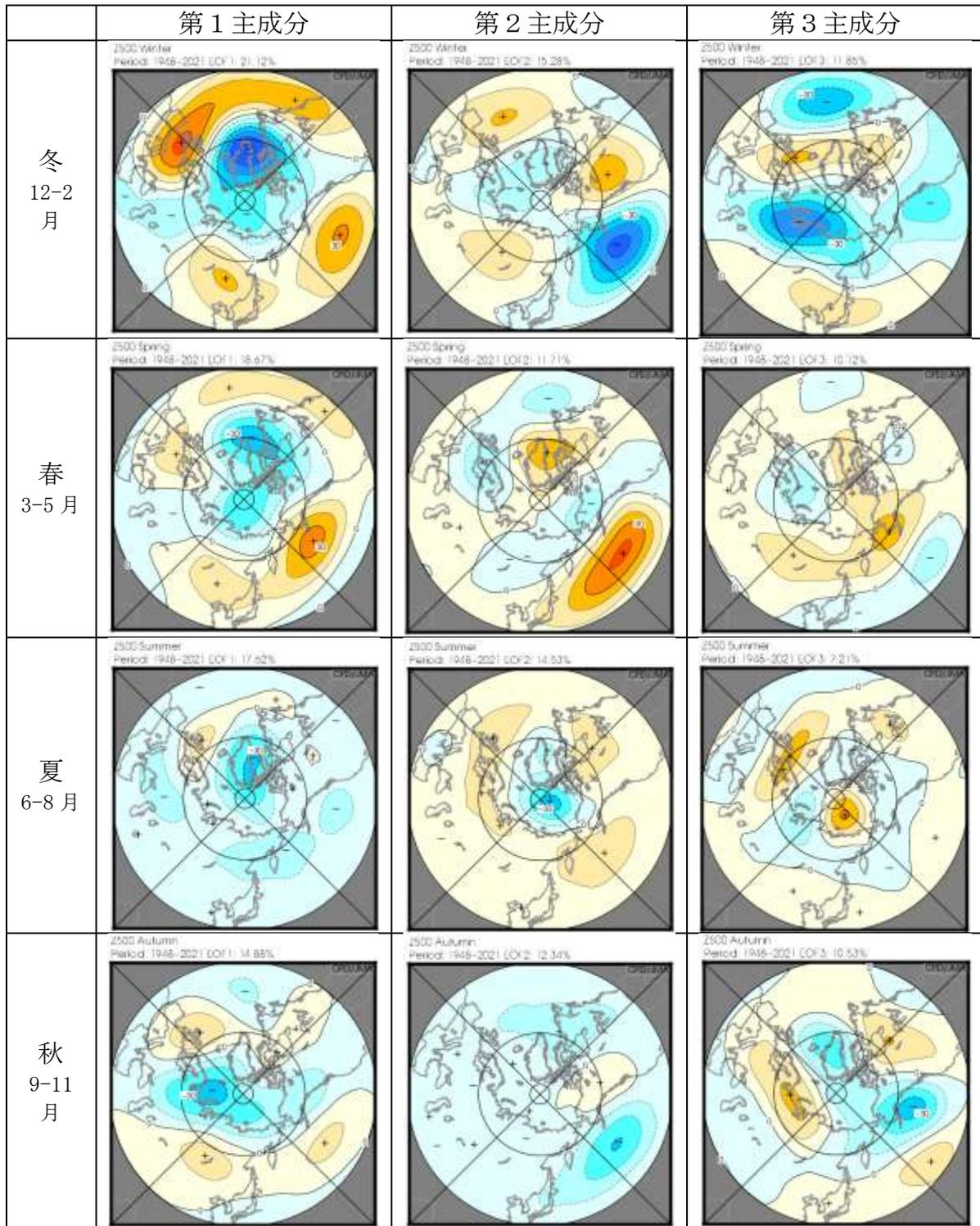


図3 JRA-3Q確定値（期間：1948～2021年）より求めた各季節の500hPa高度主成分の空間パターン